みなさんと議会を結ぶ

西和賀町 議会だより

No.23
平成23年7月25日号
【年4回発行】

■主な内容 **6月定例会**

・議員によるボランティア活動…2P～
・湯田浄水場に非常電源……5P
・新しい議会構成決まる……14P～
・あの課題の行方（沢内小夜間照明設置）…19P
・生涯現役（槻沢長寿会）……20P

夢をつかめ!! 夢にしわがっ児 Vol.9

沢内中学校柔道部

2選手が東北大会に進出

7月16日～17日二戸市総合スポーツセンターで行われた岩手県中学校総合体育大会（中総体）で、男子個人戦50kg級と55kg級で、2選手が東北大会にコマを進めました。写真は男子50kg級で積極的に攻める高橋選手。

（関連20ページ）

東日本大震災
3・11

今なお残る大きな爪痕
復興支援として35万円

6月29日議員8人が大槌町で災害ボランティア活動を行いました。西和賀町では、同じ県内の町村である大槌町を重点的に支援していくこととし、技師職員を長期に派遣するなどして支援しています。

大槌町の被害の状況

区　分	数　値
死亡者数	785人
行方不明者数	827人
家屋倒壊数	2677棟
避難所数	34か所
避難者数	1516人
在宅避難者数	2463人

死亡者（7月10日現在）、行方不明者数（5月31日現在）、町内避難者数（7月7日現在）の各数値は、大槌町のホームページから

町政調査会（湯澤正会長）では、6月29日に大槌町で災害ボランティア活動を行ってきました。

これは、町や西和賀町社会福祉協議会が行っている「大槌町災害復旧支援ボランティア活動」に参加したもので、佐々木議長はじめ8人が参加しボランティアを行いながら、被災地の現状を確認してきました。

当日は、議員のほか一般参加者も含め16人で大槌町に向かいました。

大槌町まではマイクロバスで約3時間半、午前9時過ぎには大槌町福祉会館に到着しました。

復興へと35万円

今回の目的は議会として少しでも被災地の役に立ちたい、何か行動したいという議員の強い願いもありましたが、もう一つは義援金を届けることです。

到着すると、事前に連絡してあった大槌町議会阿部六平議長と野崎重太副議長が出迎えてくれました。

その後、佐々木議長から阿部議長に対し西和賀町議会として義援金を手渡しました。

佐々木議長は「大震災にあわれ心よりお見舞い申し上げます。復興に向けてご活用ください。一日も早い復興を心より願っています」と激励しました。

阿部議長は「ご覧のとおり大槌町は大きな被害を受けましたが、現在は復興に向け取り組んでいます。皆さんの善意を有効に活用します。ありがとうございました」と感謝し、復興に向けて硬い握手を交わしました。

町政調査会では、すでに岩手日報社を通じて日本赤十字社に義援金16万円をおくっていますが、今回は全国町村議会議長会からの義援会を含む35万円をおくりました。

家財清掃と泥の撤去作業

その後は、各班に分かれて作業を行いました。

敷地内にたまった泥をかき出し、もとの砂利敷きに戻す作業です。すくった砂利と泥は水で洗い出します。

町政調査会とは

町政全般の調査・研究などを行い、町政の運営にかかわり、町の発展を目的として議員全員が加入する任意の団体です。

大槌町災害ボランティア

主には、波で浸水した住宅の敷地内の泥の撤去作業と住宅内の家財の清掃作業です。

大槌町では、３６７７棟の家屋が倒壊しましたが、一部は倒壊を免れたものの、床上浸水などの被害が発生しています。

作業を行った家屋は、床上約１５０㌢が浸水し、浸水を示す後はまだ部屋の壁にくっきりと残っているほか、もとは砂利をしいていた敷地も泥が覆い被さっていました。

そこには、想像を絶する光景がありました。

幾度となく除去作業などを行った、とのことでしたが、それでも完全に泥を取り出すことは容易でありませんでした。

議員らは、幾度も雑巾を洗い直しながら清掃作業にはげみ、敷地の泥をかき出しました。

関連情報

●岩手県ぼうさい情報ポータル
http://www.prefiwate.jp/bousai/index.html

●大槌町災害復興室のホームページ
http://otsuchi.web.fc2.com/

町や社会福祉協議会では大槌町への支援ボランティアを今後も続ける予定です。希望される方は、総務課防災係☎82－3281または西和賀町社会福祉協議会地域福祉係☎84－2161までご連絡ください。

なんども泥を拭き取りますが、心の傷は癒すことはできません。

阿部大槌町議会議長に義援金を手渡す佐々木議長。

恥ずかしくない必死さで生きているか

町政調査会長　湯澤　正

大槌町は小説「吉里吉里人」で好感を持ち、叔父も暮らしています。湯之沢で親戚のある人もいるし、中学の同級生も嫁ぐなど親しみを感じている町です。

それにしても今回の大地震と大津波の巨大な威力は自然の力の圧倒的な強さと人間のちっぽけさ、無力さをはっきりと私達に教えてくれました。科学技術の進歩で、現代文明は自然を克服したなどという人間の思い上がりを打ち砕くのに十分すぎる仕打ちです。

それでも、大切な家族を失い涙の乾かない内に、明日を向いて必死に生きようとする多くの人々。日本列島における人類の起源は3万年前とも言われています。１０００年に一度の大災害とすれば、これほどの仕打ちを数十回受けてきたことになります。どんなに打ちのめされてもその都度先人はそれを乗り越えてきました。そうして今の私達があるのです。人間ってやっぱりすごいなとも思うのです。きっと今回もたとえ時間がかかっても乗り越えていくことでしょう。

私は大槌で黙々と後片づけをするたくさんの人々を見て、自分はこの人達に恥ずかしくない必死さで生きているのか、と自問しました。

期待以上に進んでいない復旧

産業建設常任委員長　柿澤繁俊

大槌町でのボランティアは今回で2回目です。震災後10日目ころに一度行きました。4か月近くなってのボランティア参加で、再度大槌町を訪ね、残念ながら期待していた以上に復旧していないという印象を持ちました。

現に私達に割り当てられたのは民家の清掃作業でした。仮設住宅が話題になっていますが、入居が思う様に進んでいないことを知人より耳にし、まだまだ問題は山積しているという印象でした。

県や町としては、住民の声をまとめ、今後の方向性を示す事が求められていると感じました。

また支援も一時的な事でなく、長く続ける事が大切だと思います。

本町でも、先ごろ豪雨による大きな水害が発生し驚かされました。早期の被害調査、その後のす早い対応を願う事と、あらためて防災のあり方、必要性を強く感じました。

今回の大震災、あるいは水害を体験し、消防団の方々や光ファイバーの有効利用による防災を進め、地域住民と共に防災の意識を高めていきたいと強く思いました。

6月定例会
報告・日程ほか

6月定例会は、6月17日～20日まで沢内庁舎議場で行いました。平成23年度一般会計予算の補正や新しい教育委員など13案件を審議しました。

町長の行政報告

●義援金として1億円

県内22町村で構成する岩手県町村会では、同会の積立金6000万円と内陸14町村からの負担金4000万円を合わせた1億円を、被災地への義援金とすること決定しました。

内陸14町村の4000万円は、均等割20％、人口割40％、財政割40％から算出され、本町の負担額は約214万円です。

●遭難者を無事に発見

東日本大震災のため陸前高田市から湯本温泉の旅館に避難している女性が6月1日午前5時ころ散歩に出かけ、朝食時間に戻りませんでした。家族から捜索依頼が出され、2日間に渡って捜索が行われました。

捜索2日目の6月2日、同宿の方が午前8時50分、穴明地内の左草川沿いの林地で発見しました。すぐに沢内病院に入院し6月7日に退院しました。無事に発見されたことに安堵し、捜索されたみなさんに感謝します。

●放射性物質は未検出

宮城県栗原市などの牧草から乳用牛や肥育牛への粗飼料から暫定許容値を超す値が検出されたほか、一関市で暫定許容値を上回る値が検出されました。県ではあらためて県南地域の各市町の牧草と乳業施設の原乳の調査を行いました。

6月11日の町営長原牧場と湯田牛乳公社の調査では、放射性のセシウムとヨウ素はいずれも不検出でした。湯田牛乳公社は、金ケ崎町のコールドセンターからも原乳も受け入れていますが、この原乳からも不検出でした。

●ジェノバソーイングの閉鎖

猿橋地区で、紳士靴の半製品の製甲縫製加工を行う（株）ジェノバソーイングが6月24日で閉鎖します。同社は、昭和58年8月に操業し、従業員は13人です。

閉鎖の理由は、今まで国産品にこだわっていた取引先が、海外生産品の品質向上を理由に、価格の安い中国製に切り替えたためです。

町は再就職の情報提供などを行い、再就職活動を支援していきます。

●臨床研修医の受け入れ

沢内病院は、岩手県立中部病院の臨床研修協力施設として6月1日から研修医を受け入れます。

基本的な診療能力を身につけることが目的で、1人1か月間、10月まで5人の研修医を受け入れる予定です。地域医療を担う医師が一人でも多く育つように役にたてればと考えています。

●湯田地区の死体遺棄事件

6月15日午後3時ころ、町内で死体遺棄事件が発生しました。

町の税務会計課徴収職員が、税金滞納のあった町内在住者の滞納処分を行うために当該対象者宅を訪問※した際に、偶然に事件に遭遇したものです。

国税徴収法に基づく財産捜索を予定しており、警察官に立ち会いをお願いし、法に基づき対象者宅に入り捜索を行いました。

捜索に着手して間もなく異臭を感じ、立ち会った警察官と一緒に遺体を発見したものです。

※留守なのに入れる理由

国税徴収法（第14条）では、滞納処分の必要があるときは、滞納者の物や住居などの捜索ができると規定されています。

捜索にあたっては、滞納者かその親族などを立ち会わせることになっていますが、不在である場合や立ち会いに応じない場合は、成人者2人、市町村の職員、警察官のいずれかを立ち会わせる必要があります。

教育委員長の報告

●町民劇場を来年に延期

今年の11月の上演を目指して昨年度から取り組んできた「町民劇場」は、東日本大震災の未曾有の被害が日に日に拡大していく中、同じ県民としてこのまま取り組みを進めることに大きな違和感があり、実行委員会で協議した結果、上演は来年に延期しました。

第2回　6月定例会会期日程

月　日	内　容		関連ページ
平成23年6月17日（金）	諸報告		4
	一般質問	5人	8～12
	・髙橋昭貴議員		
	・中村キミイ議員		
	・刈田敏議員		
	・湯澤正議員		
	・児玉正彦議員		
20日（月）	議案審議		5～7
	報告	2件	
	補正予算	2件	
	そのほか	7件	
	同意	2件	

※18日～19日は休会しました。
※議会の回数は、定例会、臨時も含めた回数で、議員の任期（4年間）での累計開催数を表します。

対応がごてごてだ
湯田浄水場にようやく発電機

3月11日に発生した東日本大震災では、幸いにも本町では大きな被害はありませんでした。

しかし、全町で停電となり、湯田浄水場の貯水ポンプを大型のものに交換したことから、既設の非常用発電機の容量不足のため取水できず湯本・湯田地区で断水しました。町ではのべ4日間にわたり給水車を配置し対応しました。

今回の補正予算では、1249万円を予算計上し、湯田浄水場の処理能力に対し正常に稼働できるだけの容量をもった非常用発電機に更新するものです。

◇質疑のやりとり

問　発電機の交換でこれだけかかるのか。

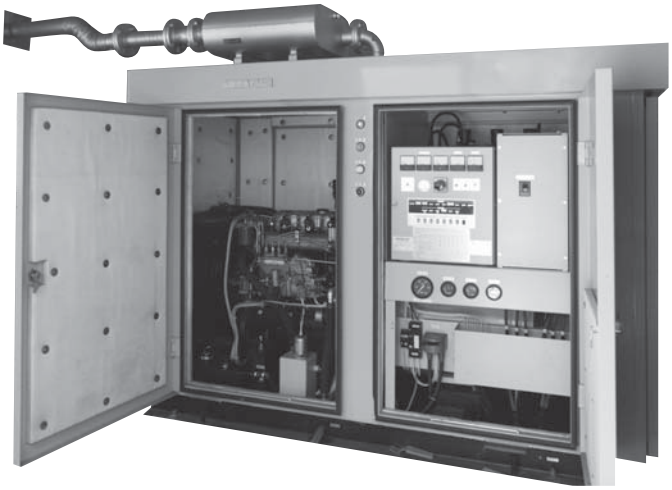
答　基本は発電機を交換するだけだが、予算には既存の発電機の撤去、新しい配電盤などの設置工事も含まれる。

問　ほかの浄水場は大丈夫か。

答　施設の中には老朽化しているものもある。修理するとなれば、各施設からいったん装置を外す必要があるため計画的に更新を行っていきたい。

問　何か事故がおきてから検証されるのが常である。各施設の総点検を事前に行い、早期に、かつ計画的に発電機の更新を考えていく必要があるのではないか。

答　早めに点検を行いたい。



写真は中部浄水場（川舟）に設置されている非常用発電機。軽油で作動し、1回の給油による運転時間は4時間。東日本大震災では職員が不眠不休で給油に努めました。

車両管理を適正に
除雪車2台を購入

町は除雪作業を行うため除雪ドーザーなど44台を所有し、除雪にあたっています。

町道337路線、延長約326キロのうち、除雪対象路線は253路で約190キロ、町道の約6割を除雪しています。

町では、除雪ドーザーと除雪グレーダー1台をそれぞれ更新します。（契約額などは7ページをご覧ください）

◇質疑のやりとり

問　購入する除雪ドーザーに付加した装備は何か。

答　チェーン、熱線入りガラス、エアコンなどを追加した。

問　ことしの除雪車の修理で多額の費用を要した除雪車があるが、どういう内容か。

答　平成14年度に購入した除雪ドーザーで、修理費は455万円だった。修理内容は、エンジン内部が損傷し修理できない状況となり、エンジンそのものを交換した。メーカには、原因追求をお願いしている。

問　車両の管理責任者は誰か。

答　車両の管理は各課に予算を配分しているので、責任者は各課の課長である。

問　修理や事故などの報告は、内部で共有されているか。

答　事故の場合は総務課でも把握しているが、修理などは規模にもよるが各課で対応している。

除雪基地ごとの除雪車保有台数（平成23年3月末現在）

基地名	ドーザー	ロータリー	トラック	グレーダー	そのほか
湯田基地	3	3	3	1	2
大沓基地	3	3	2		1
中村基地	1	2	1		
耳取基地	1	1	1		
貝沢基地	2				
長瀬野基地	3	1	1		
太田基地	3	1			
新町基地	3	1	1		
合計	19	12	9	1	3

※そのほかは、歩道用の除雪機械などが含まれます。

購入予定の除雪グレーダー。車体の下に排土板を装備し、車体の揺れが排土板に伝わりにくい構造になっているため、除雪ドーザーよりもきれいに路面を平らにできます。（写真：キャタピラージャパン(株)のカタログから転載）

審議した内容

このように決まりました

告知端末でラジオ放送 教員住宅を町営住宅に ほか

22年度一般会計繰越明許 22年度病院会計繰越明許

22年度に予算化し、年度内に事業を完了することができなかった事業を23年度に繰り越しました。

額や内容は表1をご覧ください。

繰越明許費とは

町の予算は、「会計年度独立の原則」により、その年の支出は、その年の収入をあてることになっています。

特別な事情で事業が遅れ、年度内に完成できない場合には、翌年度に繰り越すことが認められています。

規約の一部改正

藤沢町は、今年9月26日付けで一関市に編入合併されます。

これにともない、県内市町村などの事務の一部を共同処理するために組織される一部事務組合などで構成団体の変更が生じたために一部を改正しました。

●後期高齢者医療連合規約の一部変更

全員賛成 ▼可決

▼団体の概要／岩手県後期高齢者医療広域連合は、県内の市町村を構成団体として、平成20年4月から始まった後期高齢者医療制度の財政運営や資格管理などを行っています。

●市町村総合事務組合規約の一部変更

全員賛成 ▼可決

▼団体の概要／県内市町村や北上地区消防組合などの一部事務組合で構成され、構成団体の退職手当の支給事務などを行っています。

●自治会館管理組合の構成団体数の変更

全員賛成 ▼可決

▼団体の概要／岩手県自治会館は盛岡市にあり、その管理は県内市町村を構成団体とする管理組合が行っています。

23年度補正予算

額や内容は表2をご覧ください。

●一般会計

全員賛成 ▼可決

●質問 緊急告知端末でラジオ放送を行うための予算として70万円が計上されているが、緊急告知端末はいつ使えるのか。

●答弁 緊急告知端末の工事は6月で作業は終了し、7月から試験放送を行いたい。

またラジオ放送は、2チャンネルと3チャンネルに、それぞれNHKとIBC（岩手放送）を割り当てたい。

●質問 緊急告知端末には5番組が放送できる。役場の放送とラジオ放送をしても、まだチャンネルが残る。残ったチャンネルの活用はどうするのか。

●答弁 現時点では考えていない。

●質問 教員住宅の修理費として15万円が計上されているが、現在の利用率はどの程度か。

●答弁 教員住宅は36世帯分あるが、このうち継続使用しているものが11世帯、用途を変更するものが7世帯、老朽化によって解体を予定しているものが9世帯、解体か無償譲渡をしようとしているものが9世帯である。3割程度の利用率である。

●質問 用途の変更とはどういうことか。

●答弁 教員のための住宅という使用目的を変更することだ。具体的には決まっていないが、一般町営住宅や雇用促進住宅のようなものにしたいと考えている。

●質問 雪氷まつりは当初予算にも計上されていなかったので、先の議会でその重要性を説明したが、補正予算に計上されていないがどうなっているか。

●答弁 現在進めている「元気な西和賀ネットワーク」事業の一つとして進めたい。

●質問 雪氷まつりの経費が当初予算に予算計上されていない理由を、先の議会で町は「いろいろあって決められなかった」などの理由を挙げていた。しかし、まずやらないということを前提にしているように思えてならないし、充分な協議もなく一方的に予算が削減されている。

雪の量はどの程度確保したのか。

●答弁 雪氷まつりをどのように発展させ、盛り上げていくかの協議

【表1】22年度から本年度に繰り越した主な事業

◆一般会計

名　称	23年度に繰り越す額	内　容
公立保育所施設改修事業	3236万円	老朽化した公立保育所建物の内外装改修を行います。
町道長瀬野線待避所整備事業	350万円	当該路線は幅員が狭いため橋の前後の待避所を舗装し、往来をしやすくします。
消防屯所整備事業	1791万円	大野地区の屯所を移築します。
湯田小学校駐車場舗装事業	1864万円	統合新設された湯田小学校の駐車場スペースが不足していることから、周辺部を舗装整備します。
沢内小学校照明設備事業	1260万円	統合新設された沢内小学校のスポーツクラブの活動を推進するため、不足している照明設備を整備します。
移動図書館車購入事業	1300万円	移動図書館車の老朽化にともない、高齢者にも利用しやすい車両に更新します。

◆沢内病院会計

名　称	23年度に繰り越す額	内　容
院内改修事業ほか	604万円	利用しにくかった浴室、トイレなどを改修します。
医療機器整備事業ほか	615万円	電動ベットなどを整備し入院患者の利便性の向上を図ります。

※繰り越した事業の中には、すでに一部実施済みのものや完了している事業もあります。

6月定例会

が整わず当初予算には間に合わなかった。東日本大震災による燃料不足もあり、確保した雪の量は例年の約3分の2である。

ことしは実行委員とも協議した結果、銀河高原を会場に7月17日に行いたい。さらに積極的に展開していきたい。

元気な西和賀ネットワークとは

住民・民間・行政が一体となって産業振興に取り組むために平成21年度に組織された団体です。財源は、岩手県と町がそれぞれ負担金を支出しています。町のことしの負担額は800万円です。

●**質問**　町道下前小繋沢線（下前地区からゆう星館を経由し左草地区に抜ける道路）の測量設計費として1500万円が計上されている。この道路沿いには、ザゼンソウの群生地があるが、それはどうなるのか。

●**答弁**　当該区間は約2000㍍で、今回の補正予算では左草地区から1200㍍分を予定している。ザゼンソウは、昨年度環境調査を行っており、その結果をみながら工事に着手していきたい。

●**質問**　移植先が決定し、移植先での生息の可能性も確保され、地区との話あいも済んだということか。

●**答弁**　道路の経路や幅員はまだ決定していないので、群生している場所が工事にあたるかどうかもこれからの話だ。移植先も含めて今後検討していきたい。

ザゼンソウ

辺地総合計画の一部変更

●**簡易水道会計**

全員賛成▼**可決**

質疑の様子は、5Pをご覧ください。

●**貝沢辺地総合計画**

全員賛成▼**可決**

町は昨年から町道貝沢C線など4路線の舗装改良事業や防雪柵の整備事業を行っていますが、財政的に有利な過疎債（借金）を利用し事業を継続していくため新たに計画に盛り込んだものです。事業費は、5年間で3億1500万円です。

●**左草辺地総合計画**

全員賛成▼**可決**

同地区は合併浄化槽による処理区域ですが、計画策定時には、平成23年度以降の合併処理浄化槽の整備計画が確定していませんでした。

そのため、現段階での事業予定分を加えて、事業費を140万円から1368万円に増額するものです。

●**質問**　23年度以降の事業予定は。

●**答弁**　5年間で10基の設置を見込んでいる。

辺地総合計画とは

交通条件など条件不利地域の格差を解消するため、公共施設の総合的な整備を財政上の計画として定めるものです。

本町では、平成21年度で6地区の整備期間が満了し、新たに22年度から26年度までの5年間の整備計画を定めています。

財産の取得案件

●**除雪ドーザーの購入**

全員賛成▼**可決**

除雪機械の老朽化にともない13㌧級除雪ドーザー1台を購入します。契約額は税込みで1412万2500円で、納車は12月28日までです。契約の相手はコマツ岩手㈱花北営業所です。

●**除雪グレーダーの購入**

全員賛成▼**可決**

除雪機械の老朽化にともない4㍍級除雪グレーダー1台を購入します。契約額は税込みで2541万円で、納車は12月28日までです。契約の相手はキャタピラー東北㈱北上営業所です。

人事案件

●**人権擁護委員の同意**

全員賛成▼**同意**

人権擁護委員は、法務大臣から委嘱され、国民の基本的人権の侵犯を監視し、侵犯された場合は救済のために適切な対応をします。

委員は、法により議会の同意が必要で、髙橋さんを再度候補者として推薦することに同意しました。

髙橋　千賀子さん
（再任・川舟・63歳）

●**教育委員の同意**

全員賛成▼**同意**

元須藤繁教育委員長の死去に伴い欠員が生じていた教育委員に、新たに1人が任命され同意しました。

平藤　壽子（ひさこ）さん
（新任・左草・61歳）

請願・陳情

佐藤政信新町区長（ほか5地区の区長）から提出された『旧沢内第一小学校の廃校舎を町の防災センターにしてほしい』とする内容の要望書は、議員などに写しを参考配布しました。

※請願はありませんでした。

【表2】　今定例会での平成23年度補正予算

項　目	現在の予算額	今回補正した額	補正後の予算額	主な内容
一般会計	60億400万円	1億577万円	61億977万円	秀衡街道観光案内板設置工事136万円、町道長瀬野線測量設計819万円、中学生演劇講座事業127万円、湯田スキー場ペアリフト主要機器整備158万円ほか（このほか話題となった補正は5ページをご覧ください）
簡易水道会計	3億7815万円	1264万円	3億9080万円	湯田浄水場非常用電源更新事業に1249万円ほか

議員の質問できる時間は30分です。今議会では５人が登壇しました（関連18P）

一般質問

髙橋　昭貴 議員

質問 避難所になる公民館の耐震は十分か

答弁 昭和56年以前に建築した17館は危険性がある

質問 平成20年に策定した本町の地域防災計画の見直しは必要ないか。

答弁 この計画は、風水害や地震による災害への対応を策定したものである。過去に発生した災害や近い将来発生すると想定される地震を考慮している。策定以来、見直していないので今後は現状に合わせた見直しが必要だ。

質問 避難所となる各地区の公民館などは、十分に地震に耐えられるか。

答弁 計画には、44の公民館を含め、62施設を避難所に指定した。耐震の目安となる建築基準法が昭和56年度に改正され、それ以後の建築物は中規模の地震で損傷がないこと、大規模の地震でも人命に影響する倒壊の被害がないことを目標にしている。

仮に平成７年の阪神・淡路大震災と同規模の地震が本町を襲った場合、昭和56年以前に建築した公民館は倒壊の危険性があり、その数は17館である。

質問 17館の地区民は、そのことを認識しているか。

答弁 計画策定後は、実質的な訓練を行っていないので、町民一人一人への認識は浸透していない。実態をより反映した見直しと訓練が必要だ。しかし、訓練の本年度の実施は難しく、近い将来に行いたい。

質問 今後17館の対策をどうするのか。

答弁 順次調査し、実態を把握したい。

6月24日の大雨は、町内に大きな被害を及ぼしました。被害額は４億円を超すとみられています（写真は、県道1号線から弁天島へ接続する町道弁天線の様子です）

質問 廃校した小学校校舎は避難所に指定しているか。

答弁 計画策定時には小学校が7校あり、その時点で避難所に指定した。しかし、耐震が不十分な校舎は避難所として適さない。

そのため地震の際、風水害の際に使える校舎と区分し活用していきたい。

質問 大雨の場合に、土石流の危険性の高い箇所はどれくらいあるか。

答弁 がけのような急傾斜地崩壊危険箇所が84か所、土石流危険渓流が70か所、土石流危険渓流に準ずる渓流が28か所である。県が調査し指定した。

今後は国や県に対し、ゲリラ豪雨に対応する砂防ダムの建設を要望していく。

質問 農業プランをどのような方法でいつ生産者に周知するのか。

答弁 西和賀町農業農村振興プランは、10年後の理想像を描き、それに向かい努力するもので、ことしから25年度までの3年間の行動を定めた計画である。

ことし3月に定め、町民へは、各種会議や各種団体の総会を通じて説明していく。

質問 集落営農は将来的にいくつ見こんでいるか。

答弁 目標は3年間で10集落だ。町としては集落営農を強力に推進したい。

ここが聞きたい

中村キミイ 議員

質問 雇用や仕事に関しどのように取り組むか

答弁 町としては6次産業を推進し生産と雇用に結びつける

質問 **町の人口減少、そして労働力の低下をどのように考えているか。**

答弁 本町の人口は昭和35年の1万1364人を最高に、その後減少が続き、昭和55年には1万人を割り、平成17年には7375人まで減少した。

昨年行った国勢調査の速報値では6601人となっており、大きく減少している。

一方、町内の事業所と従業者数をみると、平成18年度は事業所数が445事業所、従業者が2932人。3年経過して平成21年度は、事業所数は444事業所、従業者数は2857で、やや減少傾向にあるといえる。

農林業の不振、就業機会の不足による若年層の町外流出が続いていることと高齢化が進行していると言える。

質問 **今後の過疎地域の自立促進計画の中には、例えば病院建設事業、火葬場建設事業などが盛り込まれているが、このような人口減少の中で進めていくことは可能か。**

答弁 町では各種の計画に基づき、着々と住民合意を得ながら執行していくことを目標としているが、その時々の状況に応じて優先順位を選択しながら事業執行していきたい。

質問 **産業不振の中で町ではどのような取り組みをするつもりか。**

答弁 西和賀町ならではの資源の有効活用をしながら、農業と商工業、観光産業の一体的な振興を図っていかなければならない。

特にも山菜と森林資源、それをまた観光ルートに結びつけ、一貫してこれを続けていくべきと考えている。

質問 **今町民が求めているのは雇用であり、仕事だが、このことに対し町はどのように取り組むのか。**

答弁 若年者あるいは新卒者を地元に残すということが一番の大きな課題である。町としては6次産業を推進し、生産と雇用に結びつけたい。

特に西和賀高校卒業生の町内就職を促すために、商工会や企業連絡協議会と連携し、町内で働く卒業生の訪問や町内企業見学会、学校での企業説明会などを展開し、次世代を担う高校生の地元志向の促進と定住住宅を設置し進めている。

雇用を創出する企業誘致は、現在養豚事業者との協議を続けており、さらに一歩を踏み込んで推し進めたい。

町では、厳しさを増す経営環境に対応するため、事業者が融資制度をより活用できるように、中小企業振興資金融資制度の見直しを行った。

町内企業の連携による新商品開発を促進するため、ことしの取り組みも予算化している。

町政調査会では、昨年10月27日、誘致の可能性のある秋田県小坂町に本社を置くポークランドグループ（養豚業者）を視察しました。

質問

地元中学卒業生の西高への進学状況は

刈田　敏　議員

東日本大震災の影響で例年より遅れて行われた西和賀高校の入学式の様子（４月15日）。

答弁　過半数を割り、憂慮する状況だ

質問　西和賀高校の存続は町の人口減にかかわる重要な問題と捉えているが、23年度の入学者の状況はどうだったか。

答弁　西和賀高校へ本年度は62人が入学している。湯田・沢内からは20人、ほかは北上市、花巻市、横手市からの入学生だ。

町内中学校の卒業生で西高に進学したのは43％で、過半数を割ってしまった。過半数を割ることになれば、県立高校の地元への必要性が問われるので、町としても教育委員会としても憂慮している状況にある。

質問　岩手県教育委員会で説明する地元中学校卒業生の過半数以上の入学の必要性である、この数値をどのように受け止めているか。

答弁　県教委が示す高校再編後期計画には、地元中学校からの入学状況も勘案すると説明を受けている。地元中学からの卒業生の入学者が50％を下回った状況は問題だと考えている。

質問　高校の存続は町の存亡にもかかわると考えているが、今後の取り組みには、新たに力を入れる体制作りが必要ではないか。

答弁　その意見には同感である。考え方としては、地域振興の一つの活用拠点であると幅広く考えていきたい。今後は西和賀高校存続対策委員会であり方を協議していきたい。

質問　東日本大震災が起きた時点で、町はどのように対応したのか。

答弁　地震発生後の午後３時に災害警戒本部を設置し、警戒態勢をとった。職員が集落を巡回し単身高齢者の安否確認を行った。また、各地区の行政区長と連絡を取りながら、被害発生の報告の依頼をしたほか、小中学生の帰宅確認、介護施設や病院の状況確認、給水車も配置した。

質問　みずからの身の安全はみずから守るのが基本だと言われているが、自身の安全を確保できない災害時の要援護者への今回の対応はどうであったか。

答弁　災害時要援護者は、高齢者だけの世帯、一人暮らし老人、さまざまな病気を持った方々で、弱者であるという認識だ。冬期間の豪雪の際にも、職員が家庭訪問をした経過があり、特に今回は単身高齢者の安否確認をした。

質問　災害時要援護者は登録制か。

答弁　登録制ではない。

質問　そのような弱者も含めて、今後の地域防災の取り組みをどのように考えているか。

答弁　地域防災計画は策定したが、実際に計画に基づいて行動する方たちが高齢などで動けないことが実態として想定される。計画に基づいた実地訓練を行い、その問題を浮き彫りにして対策していく必要がある。

質問

平泉の世界遺産登録が間近 これを町の観光にどう生かすのか

湯澤　正　議員

7月1日から始まった「タクシー観光」。通称名は「タク観（み）クン」。例えば、子規句碑めぐりコースは90分で普通車4500円、ジャンボタクシー7000円という料金設定です。

質問　観光客の入り込み状況はどうなっているのか。

答弁　昨年度と比べ、宿泊で7・7％減、日帰りで8・2％減少している。特徴として家族旅行や夫婦旅行、あるいは40～50代の女性同士や一人旅の傾向がある。新幹線や高速道を利用し複数の目的地を設定し、市町村を越えた広域エリアの周遊型旅行、一回での旅行距離が伸びているのが最近の傾向だ。震災の影響は大きかったが、徐々に回復しつつあると感じている。

質問　昨年、観光協会へ課長級職員を派遣したが、その総括を伺う。

答弁　会員の要望は事業の企画やタイムリーな情報発信である。協会の実態と会員の要望に格差があり、これを埋めなければならない。湯夢プラザ2階にある事務と1階の窓口対応を一本化して情報を共有することが必要だ。

質問　料金や時間を前もって伝え、客の利便を図るという「タクシー観光」は実施したのか。

答弁　7月からスタートする予定だ。

質問　どういう観光地を目指すかという町の目標を定めるべきではないか。

答弁　これから着手する。観光に携わる関係者と議論を深め、取り組み方の差別化を図り具体的なものをつくり上げていきたい。

質問　平泉の世界遺産登録がもう間近だが、これをどう生かすのか。

答弁　平泉には秀衡街道を通して金を提供したという過去の歴史があるので、これをアピールする観光を展開していきたい。

　西和賀から秋田方面へのルートの取り組みが有力と考えている。平泉と繋がる秀衡街道、歩いて楽しむ秀衡街道、車で行く秀衡街道、鉄道で行く秀衡街道というような観光客を誘い込むストーリーをつくっていく。

質問　むしろ素通りされる心配はないか。

答弁　財産である秀衡街道に、解説や物語をつけること。小さなグループ旅行に対して金山のあった地の温泉につかり、山の幸と自然を楽しみながら宿泊できる仕掛けを工夫したい。

質問　中尊寺ハスの譲り受けの計画はどうなっているか。管理の方法も含めて検討するべきではないか。

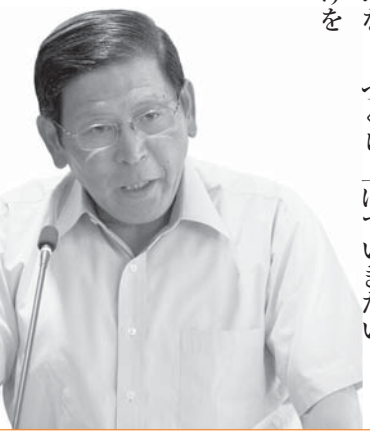
答弁　来年4月の株分けに向け、ハスの移植先を検討している段階である。

質問　例えば中越地震復興の合い言葉「帰ろう山古志（やまこし）へ」、あるいは大分県大山町の「梅栗植えてハワイに行こう」を超えるようなキャッチフレーズを求めたい。町民がわかりやすい町の「旗印」を打ち立てるべきではないか。

答弁　来客者にアピールできるような旗印は必要だ。パンフレットなどにきちっとうたえるものをつくり上げていきたい。

秀衡街道に物語をつけて、秋田方面への観光ルートを提案する

答弁



6月24日の大雨で、一部地区で田や農業施設などへも冠水し、収穫にも大きな影響がでるとみられ、農業者の士気を高めることも今後の課題です。
（写真は飯豊地区のもの）

質問

町主導の分担金条例による事業を望む声にどう応えるか

児玉　正彦　議員

答弁

課題の提言として受け止めておく

質問 西和賀農業振興プランによると3年後の集落営農による連携では、目標を10集落としているが、営農組合の代表者との会議を開いているか。

答弁 本年度の取り組みとして全集落で集落営農の意向調査を実施する。

質問 農業後継者の育成や集落営農組織の運営を支える人材育成、研修機能も持たせるという「農業塾」の開設はどうなっているか。

答弁 農業塾の創設に関する提言委員会を設置し、7月中旬に第1回目の会議を開きたい。構成員は外部の方、町内の農業者の代表者などを考えている。来年度の仮開講にこぎつきたい。

質問 塾の運営主体は農業振興センターの中に置くことになっているが、設置委員会の中心となるのは誰か。

答弁 町のアグリビジネスにもかかわっている岩手大学農学部の教授にお願いしたいと考えている。

質問 農地流動化の推進と遊休農地再生の3年後の目標として、担い手への農地集積年間50町歩となっているが、担い手とはどんな方々を指すのか。

答弁 地域の農業を意欲的にやっている方、認定農業者、各種法人など、農業者の意欲のある多様な方々である。

質問 遊休農地の解消はどの様に把握しているか。

答弁 解消された面積は27町歩だ。しかし新たに自己保全管理となった水田が38町歩となり遊休農地が前年度より11・1町歩上回った。これは戸別所得補償のモデル対策の実施で販売する事が義務付けられ、販売できなかった牧草などが自己保全管理になってしまった為によるものである。

質問 本年度はどのくらい解消できるか。

答弁 戸別所得補償対策の定着と土地利用型の経営を目指す法人が町内に1法人できたので、昨年度の倍以上の面積で取り組まれる事から50町歩ほど減少が見込まれる。

質問 西和賀土地改良区の果たす役割は大変大きいが、組合員の高齢化により農業に従事することが困難で、農業用施設の管理などにあてられる経常賦課金の納入が困難になっている。町主導の分担金条例による事業を望む声が多いがこの現状にどう応えるか。

答弁 賦課金などの問題は、今ここで明確な方向を打ち出せないので、課題の提言として受け止めたい。

質問 泉沢地区の住民は、水無沢山線と馬口山線を結ぶ農道の除雪を切望しているがどうか。

答弁 23年度除雪計画の策定には緊急度、重要度を勘案して検討する。

【そのほかの質問】

・転作作物の栽培促進に向けての機械導入の利用体系は

6月20日、第一回目の編集会議の様子

いつもありがとうございます 広報は私たちがつくります

西和賀町議会だよりの編集にあたっては、議長を編集長とし、委員4人による編集委員会を組織し行っています。

委員の任期は、2年間で先ごろ新しい委員が決まりました。編集長に佐々木正裕議長、委員には髙橋昭貴議員、中村キミイ議員、刈田敏議員、淀川豊議員の4人です。

（詳しくは14～15ページをご覧ください）。

広報発行の目的は、いうまでも無く議員の議会活動を町民のみなさんにお知らせすることです。

しかし、その内容が偏っていたり、正確でないとすれば、その目的は達成したことにはなりません。

このため「西和賀町議会広報発刊要綱」を定めて、それにそって議会だよりを発行しています。

従来は定例会終了後2か月の発行間隔だったものを30日以内にする（第16号から）、あるいは臨時議会の際には速報版を発行するなど改善を行ってきました。

また、過去の議会だよりは町のホームページからダウンロードできます。

研修会にも積極的に参加し、研さんを積んでいます。

ささいなことでもかまいません。議会だよりに関するご意見やご要望は議会事務局までお願いします。

西和賀町議会だよりの編集方針

（発刊要綱から抜粋）

一、本広報は、真実を伝えなければならない。
一、本広報は、公正でなければならない。
一、本広報は、個人の利害に利用されてはならない。
一、本広報は、平易であり、かつ啓蒙的でなければならない。
一、定例会終了後、本広報を約30日以内に発行します。
一、臨時議会終了後、直近の区長配布日にあわせて速報版を発行します。

議会からのお知らせ

希望団体を募集中 あなたの声を届けます

町政調査会（湯澤正会長）では、町民のみなさんに議会の活動をより身近に感じてもらえるように議員との対話を通じ、みなさんの要望や想いを町に届けるために「住民の声を聴く会」を行っています。

今までは各行政区、あるいはきらめく女性連絡会などの各種団体と対話をし、それを基に町に対し要望を行ってきました。すでに、その一部は実現し実行されているものも少なくありません。

この開催希望団体を次のとおり募集します。遠慮せず、どうぞわたしたちにご要望ください。

▽**締め切り** 8月31日㈬まで議会事務局にお申し込みください。

▽**対象** 町内の団体や事業所、各行政区

▽**日時と場所** 開催日時や場所は、開催希望団体と調整のうえ決定させていただきます。

原則として開催希望団体のご都合にあわせて、お伺いします。

▽**お問い合わせ** 議会事務局（沢内庁舎内）☎㊽3416まで

今までに開催した「住民の声を聴く会」の会場の様子
（上・平成21年8月・湯川地区、下・平成22年1月・保護者会）

議長に 佐々木正裕 議員（再任）
副議長に 髙橋 昭貴 議員（新任）

西和賀町議会では、議会議員の改選にあわせて議長などを決めたほか、各種委員会の委員もあわせて選任しましたので、新しい委員を紹介します。

ことし4月24日町議会議員選挙が行われました。それまでの議員定数16人に対し、今回の選挙から議員定数は4人減の12人です。14人が立候補し12人が当選しました。

5月11日に行われた臨時議会で、議長、副議長選出は、いずれも議員による投票で決しました。

議長選の結果は、佐々木正裕議員に7票、児玉正彦議員に4票、髙橋雅一議員に1票となり、佐々木正裕議員が議長に就任しました。

また、副議選の結果は、髙橋昭貴議員に7票、湯澤正議員に4票、髙橋雅一議員に1票となり、髙橋昭貴議員が副議長に就任しました。

また、各種の委員には、条例や慣例にしたがい、議長推薦や議員推薦により、それぞれ次のように選出しました。

◆産業建設常任委員会（定数8、任期2年）

産業や建設に関する事務の調査と議案、請願・陳情などの審査を行ったり、関連する条例を提案します。

委員長 柿澤繁俊

副委員長 柳沢安雄

委員 深澤重勝

委員 髙橋雅一

委員 児玉正彦

委員 淀川豊

◆総務教民常任委員会（定数8、任期2年）

総務や教育民生に関する事務の調査や議案、請願・陳情などの審査を行ったり、関連する条例を提案します。

委員長 中村キミイ

副委員長 早川久衛

委員 湯澤正

委員（副議長） 髙橋昭貴

委員 刈田敏

委員（議長） 佐々木正裕

※議長は慣例で委員会を辞退しています

□常任委員会とは

議会の権限強化と行政の複雑化、専門化に対応するため、議会が合理的かつ能率的な調査などが行えるように設置されます。

自治法では、議長も委員会に所属しますが、議長には、議会としての代表権が与えられているほか、もともと各委員会に出席して発言できることなどの理由から委員会を辞退できるとされています。

そのため、慣例に従い佐々木議長は委員会を辞退しています。

委員会の任期は、自治法では「議員の任期中」とありますが、本町議会では、条例で2年と定めています。

□一部事務組合とは

行政の能率化と効率化を図るために、特定の事務を関係市町村で共同処理する方式です。構成市町村の首長や議員などで構成され、その構成員をもってそれぞれの組合で議会を組織しています。

議会運営委員会

（定数5、任期2年）

『会期を何日間にするか』、『議案の取り扱いをどうするか』など、議会運営を円滑に行うために議長の求めに応じ、さまざまな問題を協議します。

委員長	髙橋雅一
副委員長	柳沢安雄
委員	中村キミイ
	深澤重勝
	髙橋昭貴

議会選出監査委員（定数1）

監査委員は、行政が最小限の費用で最大の効果をあげているか、事業の妥当性や能率性を監査しており、町村の場合は２人の監査員を置くことになっています。

一人は、識見を有する町民から、もう一人は議員から選出します。任期は議員の在任期間です。

早川久衞

広報編集委員会

（定数5、任期2年）

定例会ごとに議会だより、臨時議会ごとに速報版を発行し、議会の様子をみなさんにお知らせします。

編集長	佐々木正裕
委員	髙橋昭貴
	中村キミイ
	刈田敏
	淀川豊

特別委員会

（定数などはその都度決定）

特定の案件を審査・調査するために設置します。例えば、予算や決算を集中的に審議する際に設置しています。その都度設置される委員会です。

町政調査会（議員全員で構成）

町政全般の調査、研究などを行い、町政の運営に寄与し、発展を図ることを目的として議員全員で構成している組織です。議会報告会、議員学習会などを行います。

役員の任期は2年で、選任された幹事の互選により会長、副会長を選出します。

会長	湯澤正
副会長	髙橋雅一
幹事	柳沢安雄
	柿澤繁俊
	刈田敏
	淀川豊

議員互助会（議員全員で構成）

会員の親ぼく、福利厚生をはかるために設置しています。委員長には議長、副委員長には副議長、２人の世話人はそれぞれの常任委員長、監事に議会選出監査委員をあてています。

会長	佐々木正裕
副会長	髙橋昭貴
世話人	中村キミイ
	柿澤繁俊
監事	早川久衞

図書室運営委員会（3人）

地方自治法では、議員の調査研究に必要な図書を保管する図書室の設置が義務づけられています。図書室運営委員は図書室の運営を行い、任期は議員の在任中で、議長が委嘱します。

柿澤繁俊
児玉正彦
刈田敏

一部事務組合議会議員

後期高齢者医療広域連合議会

（各市町村とも定数１）

平成20年4月から始まった後期高齢者医療制度の運営は、保険料の徴収や窓口業務を市町村が行い、財政運営や資格管理などは都道府県単位で組織される広域連合会で行うことになっています。

岩手県では、県内の全34市町村が加盟し、首長か議員から１人の議員を選出します。

児玉正彦

北上地区広域行政組合

西和賀町、北上市、花巻市で構成している事務組合で、主にし尿処理を共同で行っていますが、北上市と花巻市は火葬業務も共同で行っています。

児玉正彦
髙橋昭貴

北上地区消防組合

西和賀町と北上市を構成市町とする事務組合で、消火活動や救命活動にあたります。北上地区消防組合の消防本部は北上市にあります。

深澤重勝
刈田敏

岩手中部広域行政組合

西和賀町、花巻市、北上市、遠野市の3市1町で構成し、一般廃棄物の処理施設の設置を目的としています。

柳沢安雄
深澤重勝

このほかの委員（各団体から推薦依頼があり、議会として選出した議員です）

西和賀町産業公社	監事	深澤　重勝
西和賀町民生児童委員推薦委員会	委員	中村キミイ
西和賀町教育振興基本計画策定委員	委員	刈田　敏

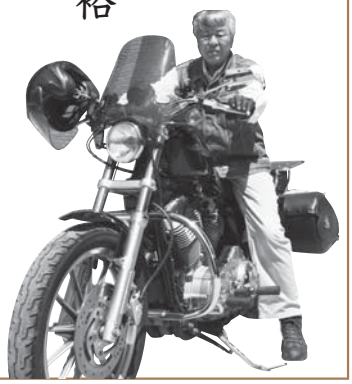
ひゃくじゅついっせいにしかず　第一回

百術不如一誠

議員の着眼（地方自治は、民主主義の最良の学校である）

議長　佐々木　正　裕

議長就任のあいさつと沢内（町民）病院の建設



5月11日、町議会選挙後初めての議会が開かれ、不肖私、佐々木正裕が再び議長として選任されました。身にあまる光栄です。

つきましては、町民のみなさんの付託を受けた議員と共に町の諸課題の解決のため働く所存です。

特にも病院建設の件、そして第三セクターの件などに真剣に取り組み、今まで以上に開かれた議会を目指し全身全霊を尽くして職を全うする事をお誓い申し上げます。

さて、沢内（町民）病院の建設整備に関しては、町は委員11人による検討委員会を立ち上げ整備計画に着手しています。

去る7月8日、町と議会による諸計画立案前の懇談である政策研究会を開催し病院建設を討議しました。

医師不足の問題や建設場所の件、そして新病院開院の件などなど課題はたくさんあります。

まず医師確保はトップリーダーである町長には、今まで以上に真剣に取り組んでほしいこと。

建設場所は、将来的に関連施設が増設可能な土地に余裕があり、町のほぼ中央に位置するのが適当だと考えること。

開院時期は、平成26年4月を予定しているとのことでしたが、是非それを完全実施できるように、早く結論を出して、事業に着手することを強く望みます。

議長就任と病院建設への所信を述べましたが、議会活動への町民のみなさんのご理解をいただき、今後のご指導をよろしくお願い申し上げます。

※「百術不如一誠」は、議長の所感などを毎号掲載しています。

議会行動

平成23年3月定例会以降の議会公式行動

3月19日　越中畑小閉校式「越中畑小」　議長、副議長、総教委員長
新町保育所卒園式「新町保育所」　産建委員長
湯本小閉校式「湯本小」　議長、副議長、総教委員長
猿橋小閉校記念式典・閉校の集い「猿橋小」　議長、副議長、総教委員長
20日　川尻小閉校式・記念碑除幕式「川尻小」　議長、副議長、総教委員長
沢内第一小閉校式「沢内一小」　議長、副議長、総教委員長
21日　貝沢小閉校式「貝沢小」　総教委員長
川舟小閉校式・記念碑除幕式「川舟小」　副議長、総教委員長
4月6日　沢内中入学式「沢内中」　議長
湯田中入学式「湯田中」　副議長
7日　湯田小開校式「湯田小」　議長
沢内小開校式「沢内小」　議長
8日　湯田小入学式「湯田小」　副議長
沢内小入学式「沢内小」　議長
15日　西高入学式「西高」　議長
臨時政務調査会「自治会館」　議長
27日　農業振興センター総会「老人福祉センター」　議長
30日　北上・西和賀地区戦没者追悼式「さくらホール」　議長
沢内遺族会総会「沢内バーデン」　議長
5月11日　第1回西和賀町議会臨時会「議場」　議員全員、事務局
13日　納税貯蓄組合連合会定時総会「対滝閣」　議長
15日　湯田中運動会「湯田中」　議長
17日　町村議会議長・副議長研修会「東京」～18日　議長、副議長
19日　春の交通安全功労者表彰式「江釣子交流センター」　議長
20日　まちづくり基本条例制定懇談「湯田庁舎」　議長、副議長
町長と正副議長懇談会「湯田庁舎」　議長、副議長
5月21日　湯田小大運動会「湯田小」　副議長
23日　沢内中運動会「沢内中」　議長
和賀川の清流を守る会総会「江釣子地区交流センター」　議長
25日　西和賀商工会通常総会「湯夢プラザ」　議長
26日　県南地区議長会総会ほか「平泉文化遺産センター」　議長、副議長
エステック定時株主総会「沢内バーデン」　産建委員長
28日　沢内小大運動会「沢内小」　議長
6月1日　西高教育振興会総会「沢内バーデン」　議長、総教委員長
2日　湯田温泉峡旅館組合通常総会「大扇」　議長、産建副委員長
5日　深澤晟雄の会総会「沢内バーデン」　議長
7日　岩手県町村議長会臨時総会「自治会館」　議長
8日　花曲線花巻・沢内間整備促進期成同盟会総会「花巻市　幸迎館」　議長、副議長、産建委員長
10日　西和賀町部分林組合連合会20周年記念事業「沢内バーデン」　議長、産建委員長
14日　西和賀町観光協会総会「湯夢プラザ」　議長
にしわが建設会「講話・懇親会」「沢内バーデン」　議長、副議長、産建委員長

※議会内部の会議は省略しています。

このように使いました

議長交際費をお知らせします

（3月定例会～6月定例会まで）

お祝い	11件	4万円
会費	1件	3千円
お悔み（花輪なども含みます）	4件	3万円

県南地区議長会議員研修会

生命尊重こそが政治の根本

各町の議員に向かい生命尊重が重要だと説く及川さん

７月６日沢内バーデンで、県南地区議長会議員研修会が行われ５町議会から約80人が参加しました。

本会は、議員相互の研さんなどを目的に、平成20年に西和賀町、平泉町、住田町、金ケ崎町、藤沢町の５議会で組織しています。

ことしの研修会の講師は『村長ありきー沢内村深澤晟雄の生涯』の著書で知られる及川和男（一関市）さんです。

講演では、深澤村長の政治理念を中心に震災や福島第一原発の対応にもふれ『もし深澤村長が生きていれば、自治体は国の下請けではない。権限も金もよこせ。命に格差があってはならない、と叫んだだろう』と、生命尊重こそが政治の根本であると話していました。

西和賀町監査委員

施設管理の適正化を指摘

銀河ホールで更新した音響装置（事業費2940万円）の説明を受ける監査委員

西和賀町監査委員は6月28日～7月1日かけ、平成22年に行われた事業が効率性、経済性、有効性であったかどうかの観点から定期監査を行いました。

この監査は、法に基づく監査で年１回以上行う必要があります。

今回は、湯田庁舎に属する課や室で行われた200万円以上の事業の中から、さらに事業を抜き出して行いました。

監査の結果、一部の施設の管理に問題があることなどを確認しました。

沢内庁舎に属する課や室で行った事業に関しては10月ごろに行う予定です。

（監査結果は町のホームページで公開します）

沢内小校外社会科見学

将来は君たちの手に

マイクに向かって元気に感想を話す児童たち

６月23日沢内小学校３年生の校外社会科見学が行われ、児童24人が見学コースのひとつである西和賀町議会を訪れました。

はじめに議会事務局職員が議会の役割や重要性などを説明し、その後に議場を紹介しました。

議場では、発言したい児童はまず挙手をしなければなりません。その後に、議長役の児童が発言を許可し、マイクにスイッチが入り、発言できるルールです。

議長役が「感想がある人」と問いかけると、児童らは元気に手をあげました。議長役から発言が許可されると「椅子がふかふかで気持ちよかったです」などとめいめいに感想を話していました。

西和賀町の未来は君たちにかかっていますよ!?

北上市議との両議員研修会

巨大震災の備えを見直す

来年の研修会は本町を会場に行う予定です

7月15日ホテルシティプラザ北上で本町議会議員と北上市議会議員の「両議員研修会」を行い、両議会から約40人が参加しました。この研修会は議員の交流を深めるだけでなく、北上地方の問題を共有し課題の解決を図ることを目的に毎年１回行っています。

研修では、大妻女子大学（東京都）の藤吉洋一郎教授を招き、「巨大震災への備えを見直す」と題した講演を聴きました。藤吉教授は「昔の災害体験を伝えていくのは大事なこと。一方で、あの時はこのくらいだったからと過信せずに、それ以上の対応を考えておく必要がある」と話していました。

質疑では、東日本大震災などの対応のあり方などが取り上げられました。

知ってるようで知らない 議会deお勉強!?⑤

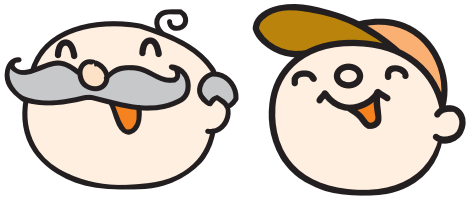
今回は

「一般質問とは」

に関してじゃ

●議会の仕組みや難しい用語をできるだけやさしく説明していきます。

「どうじゃ よくわかったか?」
「うん」



シリーズその後を追う⑫

〔このコーナーでは、議員が一般質問などを通して町に問いただしたことが、その後にどうなったかをお知らせします〕

あの課題はどうなった？

沢内小グラウンドへの照明の設置

経緯

今年の４月、貝沢小・川舟小・猿橋小・沢内第一小の４校が統合し、沢内小学校として開校しました。

校舎は、既存の猿橋小学校をそのまま使用していますが、グラウンドには２つの夜間照明器具しかなく、スポーツをするには照度が不十分です。

このため、昨年の12月定例会に、４校のＰＴＡ会長から「西和賀町立沢内小学校グラウンドの照明設置に関する請願書」が議会に提出されました。

⇩

議会では

請願をうけて、総務教民常任委員会で内容などを審査しました。審査の過程では『指導者の多くが仕事帰りの指導で、照明は必要だ。湯田小学校となる湯本小学校には照明が完備され、均衡を欠いている』などの意見が出されました。

本会議では、総教委員長から『請願がだされるまでもなく、校舎施設の整備環境の充実のひとつとして、むしろ町から整備の提案や申し出があってしかるべき事項』との意見が付され、採決の結果全員賛成で採択しました。

⇩

結果

昨年度予算（国の「きめ細かな交付金・住民生活に光をそそぐ交付金」）として1260万円が計上されました。

しかし、国からの交付金の交付時期が遅く、本年度に繰り越して事業を行っています。

◆設置する照明設備の概要

先ごろ管内の電気事業者５社による指名競争入札が行われました。

落札、契約の相手方は㈱ユアテック北上営業所で、契約額は税込みで819万円です。

教育委員会学務課によると、設置される照明器具の投光器１灯あたりの明るさは1500ﾜｯﾄです。

この投光器が１本のコンクリート柱に４つずつ取り付けられます。

設置場所は、現在のバックネット付近を中心にコンクリート柱を４本（投光器の数は16基）設置することにしています。

工事の完成は、８月31日までの契約としていますが、できるだけ工事を急ぎ、使用開始は早ければお盆のころを予定しています。

◆無料ですか

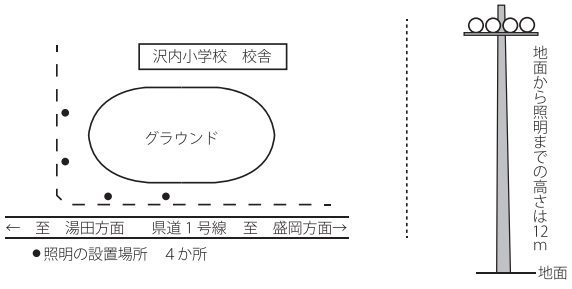
いいえ。照明設備はタイマー式で、必要な時間数分の専用コインを購入して使うことになりますが、まだ料金に関しては未定です。

詳しくは、担当課までお問い合わせください。

《本件のお問い合わせ》

教育委員会学務課（沢内庁舎）　☎85-2337まで

照明灯配置イメージ図



みなさんと議会を結ぶ
西和賀町 議会だより
No.23

夢をつかめ!! にしわがっ児 Vol.9

沢内中学校柔道部

本コーナーは小中高生のクラブ活動などを紹介していきます

部員は3年生3人、2年生1人、1年生4人で、中総体「東北大会出場」を部の合い言葉に練習に打ち込みます。中総体県大会出場は毎年果たし、東北大会出場選手を過去にも輩出するなど県下でも有数の強豪校として知られています。

中総体県大会では、団体戦は２回戦で敗退したものの、個人戦に4人が出場し、男子個人戦50kg級2位の高橋汰空さん（3年）と同55kg級3位の高橋航太さん（1年）が8月2日～3日山形県鶴岡市で行われる東北大会に出場します。みなさんのご声援をお願いします。

指導者
泉川裕市さん
（大野）

柔道競技の普及のため沢内柔道スポ少を組織し、指導し始めてかれこれ20年近くになります。
入部する生徒も、高い目標や志をもってきます。それに応えられるような指導を心がけています。
当時の部員が、今は指導者として後輩の指導にあたっています。このつながりも沢内中柔道部の強さの原因だと思います。
これからも全国に通じる選手の育成に努めます。

部長
高橋汰空（たから）さん
（大野・３年）

県大会では優勝をのがして悔しかったので、東北大会ではこのツケを返し、優勝を目指します。

主将
髙橋星哉さん
（大野・３年）

３年生はこの大会で引退ですが、後輩たちには一戦一戦を大切にして来年も頑張ってほしいです。

本コーナーは老人クラブの活動などを紹介していきます

まなが～く「生涯現役」です (9)

槻沢長寿会　会長
南川賢一（けんいち）さん
（75歳・槻沢）

槻沢長寿会は、読んで字のごとく『末永く健康で長生きし、仲間を増やす』という意味が込められています。会員数22人の小さな団体ですが、いろいろな活動をしています。
神社境内の草とりや地区の子どもたちと合同のクリーン作戦。最近はマナーも良くなりましたが、人家の無い槻沢地区と分訳地区の境は以前はひどいもんでした。
「見守り隊」と称して、児童の登下校の際の監視もやっています。「人目がある」ことに意義があると思って継続しています。
また、ふれあい事業として月に1回は湯治を兼ねて沢内バーデンでのんびりします。憩いの場です。
毎年行う年に1回の研修視察では、町内のことをよく知ろうと貝沢から湯川までバス周遊したこともあります。紅葉の西和賀は本当にすばらしいですね。
少ない会員数で難儀なことも多々ありますが、だからこそ協力し合って活動ができるのだと思います。

バス周遊の際に、町の指定文化財天然記念物シダレザクラ（鍵沢地区）をバックに記念撮影!!

暫時休憩（ざんじきゅうけい）

3月11日東日本大震災が発生。3月定例会の最中の出来事であり、あまりの強震に全員3階議場から屋外に避難しました。
三陸沿岸には大津波、さらには福島県の原子力発電所の事故。地震、津波、原子力事故と三悪が一度に発生し、千年に一度と言われるほどの未曾有の災害になりました。県内でも沿岸地区は壊滅的な被害を受けました。
本町にも被災された方々が一時避難され、ご心痛を察するにあまりあるところです。
早いもので災害から4か月が過ぎ、今私どもに何ができるのか考えさせられます。
共に支えあい、励ましあい、災害を分かちあい、絆を持つことかと思います。私ども内陸部から、元気や勇気を発信し、希望を持って復旧、復興できるよう協働の気持ちで支え合っていきたいと思います。ガンバロウ「岩手!!」

（編集委員　髙橋　昭貴）

【議会だよりは私たちが編集しています】
編集長　佐々木正裕
編集委員　髙橋　昭貴
〃　中村キミイ
〃　刈田　敏
〃　淀川　豊

議会だよりは、過去に発行した分も含めて西和賀町のホームページでご覧いただけます　http://www.town.nishiwaga.lg.jp/

発行日／平成23年7月25日・年4回発行
編集／岩手県・西和賀町議会広報編集委員会
印刷／鶴田印刷株式会社・横手市
発行人／岩手県・西和賀町議会議長　佐々木正裕
〒029-5602　岩手県和賀郡西和賀町沢内字太田2地割81番地1
西和賀町（沢内庁舎）TEL0197(85)3416　FAX0197(81)2008

VEGETABLE OIL INK